

私が思う朝日高校の「今」と「これから」  
— 岡山県高等学校教育課程研究協議会総則部会を通して考えたこと —

守 屋 昌 樹



# 私が思う朝日高校の「今」と「これから」

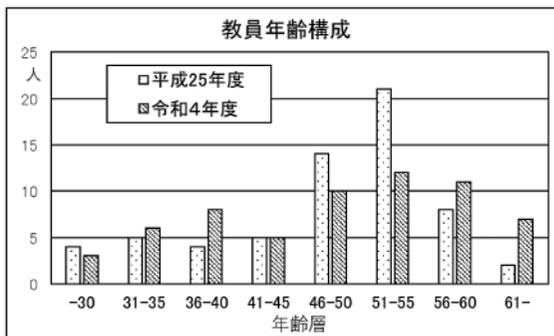
－岡山県高等学校教育課程研究協議会総則部会を通して考えたこと－

守屋 昌樹

## 1. はじめに

令和4年度に岡山県高等学校教育課程研究協議会総則部会へ筆者が本校を代表して参加し「学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの充実」について研究することとなった。年間2日の協議会参加と3回の研究課題の提出が求められるが、これからの朝日高校のためになるような研究にしたいと考えて取り組むこととした。

岡山県教育委員会（以下、県教委）からスクールミッションが示され、これを受けて本校はスクールポリシーを策定し、その実現に向けて教育活動を展開することとなっている（巻末の参考図表を参照）。また、本校は令和6年に創立150周年を迎える伝統校であるが、図表1-1に示す教員の年齢構成の変化や人事異動、社会情勢などに対応しながら、朝日高校がこれまで育んできた文化と精神の継承が求められている。さらに、新型コロナウイルス感染症のために様々な行事の制限や、ICT環境整備に伴う多忙化により教員間の対話や余裕がなくなるなど、コミュニケーション不足が心配される。そこで、新しく赴任して来られた方々も含めて、教育方針や指導方法等の羅針盤のようなものを確認し共有したいと考えた。



図表 1-1 本校教員の年齢構成とその変化

本稿のタイトルに朝日高校の「今」と「これから」とある。大胆かつ大げさでお叱りを受けるかもしれないが、新型コロナウイルス感染症の拡大や GIGA スクール構想、新課程の導入など、高校教育全体にとっても節目となる時期であり、移行期の記録としてご容赦いただければと考えている。

## 2. 総則部会の協議内容について

今年度の総則部会は8月31日午後と11月9日終日の日程で、岡山県総合教育センターにて行われた。ここでは協議会の内容等について得られた知見や情報、筆者が考えたことなどを簡単に紹介したい。

### (1) 第1日目（8月31日）

研究課題「学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの充実」について、県教委から説明があった。カリキュラム・マネジメントについて『学習指導要領解説総則編』には図表2-1のような記載がある（下線は県教委資料）。

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を把握してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

図表 2-1 カリキュラム・マネジメントの三つの視点

県教委の説明では、教育の目標を実現するためにどのような役割や共有が必要なのか、また、教育活動を通してどのような力が身につくかなど、原点に立ち返ることや教員の意識改

革が求められていることが示された。さらに、教科等横断的な学習の推進として、STEAM 教育 (Science, Technology, Engineering, Mathematics に加え、芸術、文化、生活、経済、政治、倫理等を含めた広い範囲 (Liberal Arts) で A を定義したもの) の推進が図られている。

次に事前に作成した資料 (図表 2-2) をもとに、小グループで学校の現状と課題について情報交換を行い、新たな課題の発見や解決の方策、今後の研究テーマについて協議した。

- |   |
|---|
| <p>1 自校の教育課程の特色について</p> <p>【1】岡山県教育委員会「リーディングモデル校」研究指定 (令和元年～3年)</p> <p>(1)朝日高校の魅力とは? (進学実績以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切磋琢磨する生徒</li> <li>・学習以外に様々なことにチャレンジすること</li> <li>・忙しいけれど充実している高校生活</li> </ul> <p>(2)チャレンジする生徒を応援する取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①放課後の活動時間の確保・・・7限の授業を減らしシンプルな時間割を実施</li> <li>②学術探究系の新設・・・自分の深めたいものを時程内で探究する</li> </ol> <p>【2】「学術探究Ⅰ」(総合的な探究の時間)・・・系統的な学びの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任ではなく担当教員2人が担当(2クラス合併で週1時間)</li> <li>・クリティカルシンキング、ディベートなど、学問の基本を学び、進路選択や2年次の探究活動へつなげる。</li> <li>・座学だけではなく、オブジェ作成など協働的な学習活動も交えながら、学びのサイクルを構築する。</li> </ul> <p>【3】朝日高校が大切にしてきた文化・精神を共有・継承する(教員・生徒)</p> <p>(1)失敗から学ぶ・見守る指導 → 細やかな生徒面談・教員間のコミュニケーション</p> <p>(2)他人の時間を奪わない(教員も生徒も)</p> <p>(3)授業参観の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えすぎでないか</li> <li>・知的スリルや達成感をもたせる</li> <li>・基礎基本の徹底から発展的な学習へ</li> <li>・生徒にやや負荷のかかるレベルか</li> </ul> <p>2 「カリキュラム・マネジメント」を進めていく上での課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開、オープンスクールなどの学校行事について、生徒・教員の振り返りを共有して朝日高校の現状を知るとともに、各行事の目的・意義を教員間で確認する。</li> <li>・教科横断的な視点を持った教育活動の充実</li> <li>・一人一台端末の活用実践例を教員間で共有する(学力向上委員会)</li> <li>・一人一台端末活用に関わる環境整備やメンテナンス等のための人材確保</li> <li>・不透明な大学入試共通テストの受験科目への対応</li> </ul> |
|---|

図表 2-2 筆者が作成した事前作成資料 (第1日)

グループ内での情報交換や他校の資料を通して、主な課題は図表 2-3 のようにまとめられたが、カリキュラム・マネジメントのテーマが大きすぎるため、課題解決の方策や研究テーマの設定など焦点化して協議することが難しかった。

<p>授業改善に関する課題…校内研修・授業見学の在り方や工夫、ICT 機器の活用、OJT 研修</p> <p>学校経営に関する課題…学校評価アンケートの集計と次年度への活用、教員間の共通理解、地域連携</p> <p>新課程に関する課題…観点別評価の方法・改善について、一人一台端末の活用</p>
---

図表 2-3 各学校の主な課題

(2) 第2日目 (11月9日)

第1日の説明・協議を受けて、カリキュラム・マネジメントを踏まえた研究テーマ (図表 2-4) のうちいずれか一つを選択して研究を進めることになった。管理職と協議の上、本校では②のテーマを選択することとした。

- ①教科等間の内容事項について、相互の関連付けや教科横断的な学習活動を図る工夫
- ②生徒の授業評価アンケート、学校自己評価など、教育課程の実施状況を評価し、その改善を図っていく工夫
- ③校内研修の実施、各種委員会等の校内体制、地域との連携についての工夫

図表 2-4 カリキュラム・マネジメントをふまえた研究テーマ

筆者は第1日の説明や協議内容を聞きながら「朝日高校が目指すべき授業・教育活動とは何か」「育てたい生徒像や身につけさせたい資質・能力とは何か」を考えていた。このとき思い当たったのが、本校の「授業参観の記録」に記載されている「授業参観の視点」（図表2-5）である。もしかするとこれらの視点が本校の授業だけではなく学校行事や部活動にも貫かれ、さらにはスクールミッションやスクールポリシーを実現する方向性を示しているのではないかと考えた。

「授業参観の視点」

- ・授業の基本「基礎・基本の徹底を重視」から「発展的学習」へ
- ・授業のレベル：生徒にやや負荷のかかるレベル
- ・発問の仕方：生徒に考えさせる質問になっている
- ・教材：「量」より「質」を重視したものに精選

「学習意欲の喚起」

- ・知的スリルや達成感を生徒に持たせているか
- ・原理・原則の授業から発展させているか

「学習における自主自律の実現」

- ・わかりやすい授業になりすぎていないか（教えすぎていないか）
- ・自らが考え、学ぶ姿勢を育成できているか

授業参観の記録(専門とする教科・科目用)  
朝日高等学校教員研修センター 中野の上巻先生

今回の参観内容は、授業者と参観者の間、新しい授業観について、  
随時質問でも結構です。必ず前置きで問いかけてください。

日 時	月 日 ( )	結 果	年 級	教科(科目)	( )
授業者名	参観者名	参観者所属	参観者住所	参観者Eメール	参観者電話番号

参観者のコメント

図表 2-5 「授業参観の記録」用紙（右）と裏面の内容（左）

そこで、朝日高校の良さや現状、日頃の教育活動で大切にしていることなどについて、教員アンケートの実施を職員会議で提案し協力をお願いした（図表2-6）。得られた情報を教員間で共有することで新しい伝統を築いていくための素地になればと考えた。アンケート結果については次章3. (1)を参照されたい。

Q 1. 朝日高校の良いところはどんなところだと思いますか？

(例) 自分が高校生だった時のように、部活動や学校行事など生徒が自分で責任をもち自由に活動できる

Q 2. スクールミッションやスクールポリシーの実現に向けて、授業・学校行事・部活動等の指導で大切にしていることはありますか？

(例) 授業の大切なところは生徒に語らせる。生徒が自分で発見する、気づかせる。  
生徒に、なぜ学ぶのか？学ぶ意義を問う（人類の歴史、人間の英知・能力の素晴らしさ）

Q 3. 指導上困っていること、分からないこと、改善すべきことがありますか？

(例) 生徒の自己肯定感の向上（偏差値などの数値だけでなく自分のよさを知って欲しい）

図表 2-6 教員アンケートの内容（Google Forms で回答）

第2日は図表2-6の実施前のアンケートの試案をもとに、各学校の取組について情報交換を行った。ある学校の学校評価アンケートでは、生徒・教員の「成長」を問う項目があり、本校でも取り入れて自己肯定感の測定ができないかと考えた。また、他教科とのコラボレーションによる授業実践の発表があったが、事前準備に多くの時間と労力がかかり実践は難しいように思われた。また、各学校の工夫やさまざまな取組が紹介されていたが、働き方改革が叫ばれている中で「日本の教育は欲張りすぎ」という印象を受けた。カリキュラム・マネジメントでは、スクラップや焦点化の視点も大切ではないかとも感じた。

### 3. 各種アンケートの実施と結果分析

(1) 本校の良さや本校で大切にすべきこと…教員アンケートから

常勤の教員 66 名中 26 名の回答があった（図表 3-1）。回答内容を勤務年数別に図表 3-2 にまとめたところ、教員の勤務年数と本校勤務年数に関わらず、多くの先生が「自主自律」「主体性」、ぶれない教育理念・教育方針、素晴らしい生徒・教員集団、および、本校を支援してくれる卒業生の存在など多くの良さを感じており、これらが朝日高校の強みであると考えられた。また一方で、他校での経験から現状の課題や違和感についての回答もあったが、これらを改善していくことで今後の朝日高校の強みになるように感じた。

「現状維持は衰退」という言葉を聞いたことがある。私たちのからだも生命維持のため絶えず生まれ変わる。本校の教育理念・教育方針を貫くためにも変化する必要があると考えるが、何をどのように変化させるべきかが難しい。

筆者は本校勤務 6 年目であるが、特に生徒の自己肯定感を向上させること、生徒の意欲を引き出すことが大切であると感じるようになった。一部の生徒にはテストの点数や校外模試の志望校判定などの数値に一喜一憂し、自分の可能性を限定しているように感じる。高い志と資質能力をもつ生徒が、多くの小さな成功と失敗を繰り返しながら心身ともにたくましく成長するためには、どのような声かけができるであろうか。

そのヒントとして、本校の令和 4 年度高校入試独自問題に引用された西研『しあわせの哲学』に多くのヒントがあるように思われる。詳細は次章で紹介するが、特別活動を中心として生徒の自己肯定感の向上を図ることができればと考えている。

		②本校勤務年数 (R5.3.31 現在)			
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上
①勤務年数 (常勤講師の期間を含む)	5年未満	1			
	5年以上10年未満	2	2		
	10年以上15年未満	1	1	1	
	15年以上	8	1	7	2

図表 3-1 アンケート回答者の内訳

Q1. 朝日高校の良いところはどんなところだと思いますか？

		②本校勤務年数 (R5.3.31 現在)			
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上
①勤務年数 (常勤講師の期間を含む)	5年未満	長年蓄積されたデータをもとに、生徒に根拠をもって提案を行えること			
	5年以上 10年未満	生徒主体で日々の活動がある程度できている/先生方も熱心/生徒、教員、OB など、生徒にとって刺激を受ける環境がある	生徒が自分で考え、自分の責任で行動でき、教員がそれを制限しない/自主自律・自重互敬・生徒が主体の学校(しかし、その良い部分が薄れてきているようにも思う)		
	10年以上 15年未満			素晴らしい教員と生徒が多くいる	
	15年以上	教育理念や教育方針にぶれがない/各種コンテストへの参加など、生徒が成長できる機会が多い/生徒が自主的に物事を考えて行動しようとする/学校規模が大きいため、活気がある(部活動の種類が豊富)/生徒たちが切磋琢磨し成長していくこと/生徒の主体性を認め、大切にす風土がある	自主自律/部活動や学校行事など生徒が自分で責任を持ち自由に活動できる	自分が正しいと思うことを伝え、正しく理解し期待以上の反応を返してくれる/教員が生徒を大人として接するという姿勢/自主自律の精神がある/非常に優れた生徒の存在/教材研究に時間を注げる/小手先のテクニックに終止しない指導を目指している	自主自律/生徒の自主性が保たれている

Q2. 授業・学校行事・部活動等の指導で大切にしていることは何ですか？

		②本校勤務年数 (R5.3.31 現在)			
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上
①勤務年数(常勤講師の期間を含む)	5年未満	10を知り1だけを教える			
	5年以上 10年未満	生徒の一人ひとりの価値、個性を尊重する	受験上のテクニックなどの上辺だけではなく、本質を問う/わかりやすいだけの授業にならない/生徒が少しでも考える時間を確保		
	10年以上 15年未満	自律の意識付け		授業は全力でやる/学習到達度の高い生徒がワクワクする授業	
	15年以上	生徒に必要以上に説明しない/生徒同士が学びあう時間や、学習内容をアウトプットする活動を織り交ぜつつ、授業進度を確保している/学校行事では、生徒のソーシャルスキルの向上につながる声掛けを心掛けている/生徒の意見を尊重する/本質を大切にすること、集団生活の基本をしっかり教えること/指示待ちにならず、自ら考えて行動できるようになること/リーダーとしての自覚をもたせる/自主性と責任感をもたせる	生徒が自分で発見する、気づかせる/生徒に、なぜ学ぶのか？学ぶ意義を問う(人類の歴史、人間の英知・能力の素晴らしさ)/自律	自主自律/ふさわしい深い内容の授業を展開する/自分の人としての姿勢や理念・価値観や生き方を核として行動しているかを問うこと/自分なりの正しさを持って自分で決断することを生徒に求める/自信を失わせない/自主性を大切にしている/	生徒自身に考えて活動させる

Q3. 指導上困っていること、分からないこと、改善すべきことはありますか？

		②本校勤務年数 (R5.3.31 現在)			
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上
①勤務年数(常勤講師の期間を含む)	5年未満	特になし			
	5年以上 10年未満	朝日高校の「良い指導」について、具体的な形で継承されておらず、どう指導を進めれば良いのかわからない場面が多い	のびのびとしていないような気がする。(生徒の気質、こちらの指導が変わったのか、あるいはその両方か)/生徒の学力差が大きくなっているように感じる		
	10年以上 15年未満			特になし	
	15年以上	生徒にやる気や興味をもたせる方法/困っていることは教科内で相談して解消しながら進めている/頭髪や服装等、生徒対応について朝日高校としてのスタンスについて分からない/寛容な中に厳しさもち、穏やかな口調で厳格な対応をすることが求められているのではないか/ ICT 活用力の向上/伸び悩んでいる生徒も自信を失わず意欲を持てるような温かい雰囲気	生徒の自己肯定感を向上させる指導(偏差値などの数値だけでなく自分の良さを知ってほしい)/手をかけすぎ、自由の履き違え	目先のテストや入試情報に振り回されるなど、短絡的判断が生徒の一部に蔓延している/学校生活に不適應になりがちな生徒への対応/集団に適応しがたい生徒の導き方/その教科が嫌いな生徒の指導/クラスの中での生徒の学力差が大きい/生徒の学習モチベーションアップの戦略	生徒の学力層が広いところ

図表 3-2 教員アンケートの回答

(2) 自己の「成長」や自己肯定感…学校評価アンケート(生徒・保護者・教員)から生徒の自己肯定感を育むことが大切であり、筆者はその実態を測定したいと考えていた。

本校の学校評価アンケートでは図表3-3に示す質問29の項目で「充実感・満足感」を測定している。しかし「充実感・満足感」はいささかハードルが高く控えめな回答が多くなるのではと予想された。そこで、協議会第2日の協議を受けてアンケート項目に「成長感」についての項目（質問28）を追加し、教員を含めて自己肯定感や学びの手応えを測定しようと試みた。生徒は各学年から各4クラスを抽出し、保護者・教員は全員を対象としてWebでの回答をお願いした。

【質問28】「成長感」

（教職員）この1年間を振り返って、この学校に勤務することにより、自分が成長したと感じている。

（保護者）この1年間、朝日高校で学ぶことにより、お子様が成長していると感じる。

（生徒）この1年間、朝日高校で学ぶことにより、あなた自身が成長していると感じる。

【質問29】「充実感・満足感」

（教職員）この1年間を振り返って、この学校で教育することにより、自分が充実感や満足感をもつことができている。

（保護者）この1年間、朝日高校で学ぶことにより、お子様は充実感や満足感をもつことができている。

（生徒）この1年間、朝日高校で学ぶことにより、あなた自身が充実感や満足感を得られている。

【選択肢】評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（全くあてはまらない）

【ポイントの算出】（ポイント）＝ $[(1(\%) \times 10) + (2(\%) \times 5) + (3(\%) \times (-5)) + (4(\%) \times (-10))] \div (100(\%) - \text{無回答}(\%))$

最高値は10.0、最低値は-10.0

質問	質問項目	生徒(回答数N=458)					保護者(回答数N=809)					本校教職員(回答数N=58)													
		%（今年度）					ポイントの推移					%（今年度）					ポイントの推移								
		1	2	3	4	無回答	R4	R3	R2	1	2	3	4	無回答	R4	R3	R2	1	2	3	4	無回答	R4	R3	R2
28	成長感	65.3	29.9	5.7	0.7	0.2	7.5			54.3	37.3	6.9	1.4	0.1	6.8			29.3	50.0	15.5	5.2	0.0	4.1		
29	充実感・満足感	56.8	35.8	4.6	2.6	0.2	7.0	7.6	7.3	47.3	39.3	10.3	2.6	0.5	6.0	7.0	6.6	31.0	36.2	24.1	8.6	0.0	2.8	4.8	4.3

図表3-3 令和4年度 学校評価アンケートの質問内容と集計結果（一部）

結果として質問28・29のどちらの項目においても生徒の肯定的な回答の合計が90%を超えていたが、「よくあてはまる」の割合は「成長感」の方が「充実感・満足感」よりも大きい傾向が見られ、「充実感・満足感」と「成長感」にズレがあることがわかった。自分が思っているような充実感や満足感はないものの、成長を感じている様子が見て取れる。一方、質問28・29に対する教員のポイントが低いのが目立つ。教員に対して「成長感」を尋ねるのは不適當であったかもしれないが、教員の意識について知ることができた。これらのポイントが低くなった理由の一つとして、教員自身は自分たちの教育活動がどのように評価されているか分かりづらいことが考えられるが、質問28・29に対して大多数の生徒や保護者が肯定的な回答していることから、先生方には自分の教育活動に自信を持ちながらも生徒を見守り、資質能力を伸ばす授業や声かけを今後も継続して欲しいと思う。

過去3年分の比較について、質問28・29に限らず、他の項目についても今年度は昨年度よりポイントが減少しているものが多かった。ただし、昨年度は全体的にポイントが非常に高い傾向があり、一昨年のポイントに戻っているようにも感じられ、冷静に分析する必要がある。昨年度は一昨年度と比べて新型コロナウイルス感染症拡大に伴う制限の中、徐々に普段の教育活動が復活し、期待値が高まったこと、今年度は社会的にwithコロナの風潮が高まり従来の感覚に戻ってきていることが原因として考えられる。

このアンケート結果を踏まえ、来年度に向けて生徒や教員の「充実感・満足感」「成長感」が向上するような教育活動を展開していきたい。

(3) 教科等横断的な学び…授業アンケート（生徒対象）から

協議会第2日では教科横断的な学びの一つとして、他教科とのコラボレーションの実践事例の発表があった。このような取り組みができれば理想的ではあるが、教員主導の場合、打合せなどの事前準備が必要であり現実的に難しいと感じた。そこで授業内ではなく、授業外や家庭内で生徒自身が学びを結びつけられないかと考え、授業評価アンケートに図表3-4

に示す質問項目を追加していただき実施した。生徒の学びの広がりの様子を生徒から直接聞き取り、これらを教員にフィードバックすることでさらに深い授業展開へつながるのではないかと期待した。

教科間のつながり、教科と日常生活とのつながりの他に、筆者の予想を超えて学ぶ喜びや学問に対する姿勢など、肯定的な回答も多く見られた。生徒の感じている学びを教員が知ることで、さらに深い授業づくりのヒントになるのではないかと考えている。

【質問】朝日高校で学んだことについて、相互の結びつきに気づいたり、日常生活につながっている場面に気づいたりしたことがあれば、具体的に書いてください。

【アンケート結果】

<教科のひろがり>

- ・現代に歴史の名残がかなりあること。
- ・理科や数学の知識によって身の回りの現象を理解した上で見ることができるようになった。
- ・生物基礎、地理 B で勉強したことを実際に見ると面白い。
- ・古文、漢文の教材やその作者などが歴史系の授業で出てきたときは教科を超えたつながりを感じ、より理解が深まる感じがして楽しい。
- ・家庭科や現代社会などの科目は日常生活に生かされており役に立っていると感じる。
- ・本を読んでいて高校で習った公式や国語の表現が出てきて、勉強が役立つことを実感して嬉しかった。

<学びに対する姿勢>

- ・友達と競い合って学力を伸ばすことができている精神面でとても成長できた。
- ・朝日のレベルの高い学びの中には日常生活でも役立つことも多々あり家族の中の会話の話題にもなったりする。
- ・授業どうしの結びつきが多く、あらゆることについて考えを深める機会がよくあるので、きちんと「学び」をできていると感じます。
- ・自主自律の教育目標を大切にしているので、日々の生活の中で自分から行動することができるようになった。
- ・講演会や探究活動を通して自分が学んでいることはどう社会に活かすべきなのか考えることができた。
- ・学校生活を送る中で先生方や友達と接することにより、たくさんの刺激をもらい自分自身が成長できているように感じる。

図表 3-4 生徒の学びのひろがり（授業評価アンケート）

#### 4. 学びにむかう意欲

本校生徒は高いレベルの中で仲間とともに切磋琢磨しようとする生徒であり、志が高く大きな可能性を秘めた生徒たちであるが、理想と現実とのギャップにぶつかりエネルギーを失ってしまう場合もある。竹田義宣前校長は本校生徒に必要な力として「強さ」と「しなやかさ」を挙げておられた。定期考査や校外模試などの一部の数値だけで自分を判断してしまうのではなく、もっと自分の可能性を信じて柔軟に対応することはできないか。そこで思い浮かんだのが西研『しあわせの哲学』の「物語の再構築」である。

この本のテーマは「人が元気に喜びをもって生きていくために必要な条件は何か？」「そもそも人は何を求めて生きる存在なのか？」である。本章では、大きな壁にぶつかり再び意欲や目標を取り戻すために必要な「物語の再構築」を中心として私の視点で切り取った部分を紹介したい。実際に本書を読んでいたところであるが、キーワードを見ただけだけでも思い当たることや気づきがあるのではないかと考えている。

【第1章】人は「生の可能性」を信じて生きている。（キルケゴール、1813～1855）

「生の可能性」＝「したい（欲望）」＋「できるはず（資源・能力）」

①親しい人たちの関係…受け入れてくれる、②社会的な活動…充実感、③趣味や楽しみ…喜び  
しかし、いくら「したい」と思っても、どうやっても「できない」ことに苦しむこともある。

## 人は「物語」を生きる

人は「いま・ここ」だけを生きているのではなく、「これから」の可能性を考えながら生きる存在である。  
→人は言葉をもつことで、過去を語り未来をつくり出すことができる。  
→「人生の物語」を形作りながら生きていく。  
→物語を誰かに語ることで自分の人生の「これまで」と「これから」をあらためて確認することもある。

## 【第2章】 自分の「物語」をつくる

### 物語は何度もつくられたり壊れたりする

自分の物語を失う。(病気・けが、環境・人間関係の変化など) → 自信をなくす。「自分など存在する価値がない」

### 物語を再構築するためには

①誰かに自分を受け止めてもらえる。(自分を認めて尊重してくれる・安心して話せる)  
⇒②自分の客観視⇒③これまでとこれからを考えようとする。⇒④意欲  
**ポイント** 誰かの力を借りてあらためて「したい=欲望」と「できる=能力・資質」の両方から点検する。

## 【第3章】 人は何を「したい」のか? 「何を」求めているのか? ⇒ 「承認」と「自由」をともに実現する。

### ①「承認」…価値ある存在でありたい。

(1)愛情的承認、(2)評価的承認、

(3)存在の承認…その人がどんな「想い」(考えや感情)をもって生きているかを認め、尊重すること。

⇒言葉を通じて、相手の「想い」をきちんと受け取り合う関係をつくり育てることが必要。

### ②能動的・主体的な「自由」…努力して自分を成長・進化させたい。

## 【第4章】 「自由」と「承認」をつなげるには?

①「存在の承認(安全基地)」から「自由な活動」へ→②「自由な活動」から「評価的承認」へ

「対話関係」が必要…「対話」とは言葉を通じて互いの「想い」を受けとめあうこと。

「たずねる・たしかめる」…なんとなくわかったように通り過ぎない、相手の「想い」をキャッチする。

⇒互いの「想い」の受けとめがうまくいく。⇒安心して話せるようになる。

→互いに存在の承認が成り立つ。→安全・安心な場になる。(安全基地)

※対話関係は「他者理解」だけではなく、他者理解を通して「自己理解」が深まる。⇒物語の再構築につながる。

### テーマ「人が元気に喜びをもって生きていくために必要な条件は何か?」

「生の可能性」(「したい・できる」)を問い直すこと。互いの思いを受けとめあう対話を通して、互いの存在の承認が得られること。対話と批評のなかで誰もが認める価値あること(ヘーゲル「事そのもの」)とは何かを問い、それを実践しようとするときに「自分の軸」ができ、人はそこで初めて自由になれる。

図表 4-1 「物語の再構築」(西研『しあわせの哲学』より)

この本を改めて読み返してみると、すぐに生徒に手をさしのべるのではなく、「待つ」「見守る」という本校の姿勢・方針を思い出した。また、本書では「物語の再構築」には「対話」が大切であることが書かれている。「会話」と「対話」は異なる。「対話」とは言葉を通じて互いの「想い」を受けとめあうことである。本校の姿勢・方針は生徒との「対話」を大切にしてきたのではないかと感じた。また、平田オリザ『対話のレッスン』には、異なる価値観を折り合わせるためには「対話」が必要とある。「対話」とは個人に限られたことではなく、社会や世界の形成・共存を考える上でも大切なものである。

令和4年度人学生から新教育課程に移行し、教科横断的な学びや探究的な学びに大きな期待が込められている。本校はこれまで「総合的な探究の時間」を時程外で3単位実施していたが、今年度の1年生は1年次に時程内に1単位実施している。関指導教諭と古山教諭によって、1年生2クラスを合併して小グループを適宜編成して意見交換やディベートなどの活動を行い、論理的思考や表現など学問探究の基礎を系統的に指導されている。他校ではクラス担任が自分のクラスの総合的な探究の時間を担当することが多いと思われるが、本校では

2名の授業担当者が学年全体を系統的に指導する体制で展開している。4月の新入生アンケートと「総合的な探究の時間」の振り返りを比較すると、生徒の思考や視界のひろがりや成長の様子がうかがえる（図表4-2）。

<p><b>【新入生アンケート(4月)】</b></p> <p><b>質問1</b> 入学する前の不安は何ですか？(複数選択可)</p> <p>・予習・復習が大変そう(81.3%) ・授業についていけるか(60.3%) ・勉強と部活の両立(41.3%) ・友人ができるか(37.5%) ・先生が厳しそう(31.1%) ・通学(21.9%)</p> <p><b>質問2</b> その不安は入学してから変わりましたか？(自由記述)</p> <p>・思っていた以上に予習・復習がたいへん。 ・頑張れば何とかかなりそうだと思うようになった。 ・案外同じような人が多かったから安心した。 ・優しい人が多いから大丈夫。 ・生徒想いの熱心な先生が多い。</p> <p><b>【1年生「総合的な探究の時間」感想(1学期6月)】</b></p> <p><b>質問1</b> 朝日高校の1年1学期の感想は？</p> <p>・忙しくて楽しい。 ・一気に見聞が広がった。 ・一日ホームルームでクラスの仲がぐんと狭まった。 ・周りのレベルが高くて刺激を受けました。</p> <p><b>質問2</b> 自分の課題とこれから目指すことは？</p> <p>・足元ばかり見ずに、将来のことを考えながら過ごしたい。 ・時間の管理をすること。 ・勉強面だけでなく色々なことに挑戦をしたい。 ・人との関わりを通して自分の価値観や考え方、情報を共有して、自分を磨いていきたい。</p> <p><b>【1年生「総合的な探究の時間」振り返り(2学期11月)】</b></p> <p>・今までは他の人の考えや意見より自分の方を優先して探究活動をしていただけ、朝日高校では周りにとっても面白い発想を持った人がいるので自然と周りの人から意見や考えを求めるようになった。 ・総探では気になることについて深く調べるということを学習したので、普段の生活の中でも気になることがあったらすぐに調べるようになりました。自分には知らないことが沢山あるんだなど実感することができた。 ・自分の考えを文章化する時には他の視点からの意見を考えられているか意識するようになった。 ・結果ばかり重視するのではなく、過程を意識できたと思います。 ・小さな活動でも目的や意志をはっきりさせ、振り返りもしてその先に繋げていきたい。 ・自分は一つの考え方に固執してしまう部分があるため、これからは社会的にも柔軟な思考ができるようになっていきたい。 ・探究の授業でいろんな教科に興味を持つことができた。 ・ある一つの視点にとらわれずに物事を多角的に考えるには、自分の意見にばかり固執するのではなく、友達の見解にも耳を傾けることが大切だと思った。 ・互いの意見の伝え方、受け止め方を考慮した話し合いの進め方をしていきたいと思う。</p>
---

図表4-2 生徒の振りかえりの様子(令和4年度1年生)

「「総合的な探究の時間」は受験に関係ないのでは？」と思う人もいるかもしれないが、本当にそうなのだろうか。受験も大事であるが、対話を通してまずは己を知ること、そして将来のビジョンを構築することが大切なのではないだろうか。

本校の探究的な学びが確立し、生徒が自ら学び、さらに互いに磨きあう集団を形成できれば、もっと面白い人材が育っていくのではないかと期待している。ぜひ1年生の「総合的な探究の時間」の活動の様子を参観していただき、教員みんなで朝日高校の学びについて考え、学校全体でバージョンアップできれば素晴らしいと思う。

## 5. おわりに

筆者は本校勤務6年目になるが、まだ分からないことやどう対応すべきか迷う場面が出てくる。細かい規定や申し合わせをつくると対応しやすくなるかもしれないが、そのために逆

に思考停止に陥ることもある。いろいろと明文化するのではなく、教職員がそれぞれの良さを互いに認めながら、日々のコミュニケーションや本校での経験を通して朝日らしさを自分流にアレンジし、柔軟に対応してきたのではないかと考えるようになった。

本校の始業式・終業式などの式典の中の言葉に朝日高校のキーワードが散りばめられている。「本質を見抜く」「生徒に敬意を表し、一人の大人として生徒と接する」「服装や言動の善し悪しは美しいかどうか」などが思い浮かぶ。また、各学年の目標には「品性」「教養」「人間力」などの言葉が共通して含まれる。朝日高校は大学入試をゴールと考えていない。時代や教員が変わっても、きちんと朝日高校の精神が受け継がれているのではないかと？

近年、新型コロナウイルス感染症や一人一台端末活用への対応などによる多忙化で「対話」どころか「会話」まで少なくなっているのではないかと心配するところである。本稿が勤務年数や教科を超えて、まずは少しでも「会話」の「種」になればと考えている。今後も御助言、御指導いただければ幸いである。

#### 【参考図表・参考図書】

##### 【スクールミッション】

高度な知識と幅広い教養を培い、学びを追求する普通科高校として、主体的な学びに向かう取組を推進するとともに、周囲と協力して課題を解決する力や柔軟な思考力と表現力を高める教育活動を通して、地域社会や国際社会を牽引するリーダーとして、その発展に貢献する人材の育成を目指す。

##### 【スクールポリシー】

###### <育てたい生徒像>

- 高い志を持ち、自ら成すべきことを考え、主体的にリーダーシップを発揮して新たな社会を牽引する力を持つ生徒。
- 思いやりを持って他者を敬い、何事にも積極的に取り組み、周囲と協力して課題を解決する力を持つ生徒。
- 確かな読解力に基づいた柔軟な思考力と表現力を備え、高いレベルの知識と幅広い教養の獲得を目指して、主体的に学習に取り組む力を持つ生徒。

###### <学びの内容・方法>

- 知的刺激にあふれた深みのある授業や個別指導・添削指導により、質の高い学習を進めます。
- 世界の最先端で活躍する卒業生の講演会など、「本物に触れる」刺激を受けて、「大学の向こう側の社会」へ高い志を持って向かうための取り組みを実施します。
- 学業と部活動の向立を勧め、富士登山・文芸作品コンクールなどの校内伝統行事、国際科学オリンピック等のハイレベルな大会やケンブリッジ大学・姉妹校交流、先端的な学問・芸術に触れる講座などへの参加など、リーダーシップや社会性を育成する取り組みを実施します。

###### <求める生徒像>

- 基本的な生活習慣・学習習慣が身に付いている生徒
- 学習意欲があり、自ら進んで学んでいこうとする姿勢を持ち続けられる生徒
- 生徒会活動・部活動等に熱心に取り組んだ経験があり、入学後も様々な活動に積極的に取り組んでいこうとする意欲のある生徒

##### 【岡山朝日のビジョン】（目指す姿）

- 入学した生徒一人ひとりの存在、多様性を尊重し、人間力、学力、個々の個性を最大限伸ばす学校
- リーダーシップを発揮して新たな社会を牽引し、未来に貢献する人材を育成する学校
- 心身ともにたくましく、かつおもいやりのある調和のとれた人間として成長できる学校
- 自らが研修と研究を深めることによって、質の高い学習指導と価値ある教育活動ができる教師集団のいる学校

##### 【岡山朝日の教育方針】

- “自主自律”を重んじ、自由を尊重する態度の育成
- “自重互敬”の精神と、教養豊かで品性の立派な人物の育成
- “のびのびときまりよく”生活し、集中・継続・協力して学び続ける人物の育成

#### 参考図表 令和4年度 岡山県立岡山朝日高等学校 グランドデザイン

- 1) 『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省（平成30年）
- 2) 『しあわせの哲学』西研（NHK出版、2021年）
- 3) 『対話のレッスン』平田オリザ（小学館、2001年）